

# 環境経営レポート

Vol. 13

2025年度

持続可能な未来を創造する

 **ペーパーウェア株式会社**



対象期間： 2024年11月～2025年10月

発行日： 2025年11月30日

## 1. 組織の概要

- ・ 事業所名及び代表者名  
ペーパーウェア株式会社  
代表取締役社長 新井 聡
- ・ 所在地  
本 社： 東京都千代田区東神田 1-11-14  
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278
- ・ 環境管理責任者および担当者連絡先  
管理部長： 杉浦 昭宏 TEL 03(5833)5050  
Eメール： a\_sugiura@paperware.co.jp  
URL： <http://www.paperware.co.jp/>
- ・ 事業活動の内容  
紙皿・紙トレイ等の紙製容器の製造及び販売

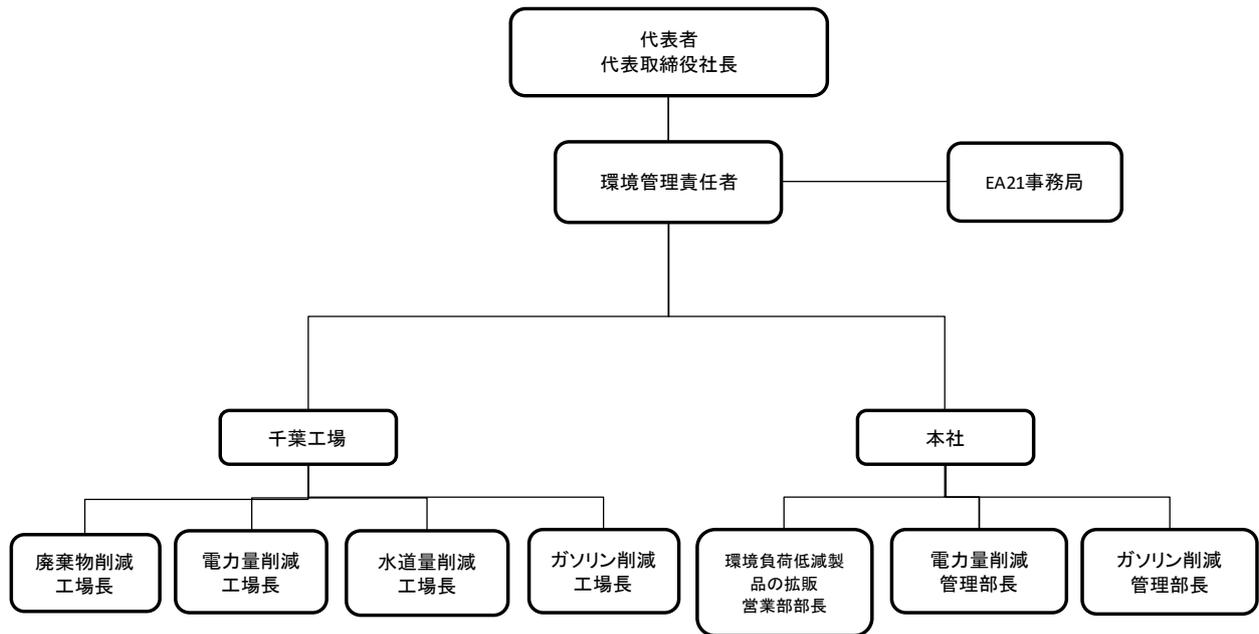
- ・ 事業の規模

	本社	千葉工場
従業員数	9名	79名
延床面積	233 m <sup>2</sup>	4,335 m <sup>2</sup>

## 2. 対象範囲

- ・ 登録組織名  
ペーパーウェア株式会社
- ・ 対象事業所  
本 社： 東京都千代田区東神田 1-11-14  
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278

### 3. エコアクション組織図および実施体制



(役割分担表)

	責務
代表者 代表取締役社長 新井 聡	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>環境経営方針の策定</li> <li>代表者による全体評価と見直し</li> <li>環境経営レポートの承認</li> <li>実施体制の全従業員への周知</li> </ul>
環境管理責任者 管理部長・杉浦 昭宏	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の把握／環境経営システムの構築と運用</li> <li>環境目標／環境活動実施計画書／実績表作成（含データ集計）と代表者への報告</li> <li>教育訓練実施指示</li> <li>環境経営システムの運用・維持状況監査</li> </ul>
EA21 事務局 管理部長・杉浦 昭宏	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境関連法規等の取りまとめと遵守評価実施</li> <li>環境経営レポート作成</li> <li>EA21 文書類の作成・維持・管理</li> </ul>
(EA21 実施担当)	
工場長	(工場) 廃棄物削減： ゴミの集計。報告 電力量削減： 電気使用量集計 報告 水道料削減： 水道量集計 報告 ガソリン適正管理： 使用量を月ごとに集計 報告 化学物質適正管理： マニュアルにて適正管理
管理部長	(本社) 電力量削減： 電気使用量集計 報告 ガソリン適正管理： 使用量を月ごとに集計 報告
営業部長	環境負荷低減製品の販売額を集計 報告

毎月、幹部会にて10分程度ミーティング。結果資料配布、各自報告等

## 4. 環境経営方針

### ペーパーウェア株式会社 環境経営方針

#### <企業理念>

当社は、地球環境保全が世界共通の最重要課題のひとつであることを認識し、「取引先および社会一般から、より信頼される会社を目指す」という経営理念のもと、紙製容器の製造販売事業において環境との調和をはかりながら環境負荷の低減に努めます。

#### <行動方針>

1. 省エネルギー化を進めて、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化の防止に努めます。
2. 省資源で仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水を進め、排水量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. グリーン購入を推進し、環境に配慮した調達を進めます。
6. 環境に優しい（環境の改善に寄与する）製品の開発・拡販に努めます。
7. 環境関連法規等を遵守すると共に、内外に環境改善への活動を約束し、環境コミュニケーションを通じて公表します。

社内の要所に環境方針を掲示して、全従業員にエコアクション21環境経営システムを徹底します。

2024年5月31日  
ペーパーウェア株式会社  
代表取締役社長 新井 聡

## 5. 環境経営目標・環境経営目標の実績

### (1) 千葉工場

#### ① 中長期目標

目標項目	2024年度 (基準年度)	2025年度	2026年度	2027年度
<b>1. CO2 排出量削減</b> ①単位当り使用電力 (Kwh/枚)	3.782	維持	維持	維持
<b>2. 廃棄物の削減</b> ①原紙抜き滓 (g/枚) ②廃プロピレン (g/枚)	1.22 0.077	維持 維持	維持 維持	維持 維持
<b>3. 水使用量の削減 (m<sup>3</sup>)</b>	580.6	維持	維持	維持
<b>4. 化学物質使用量の適正管理</b>	管理ルールを設け、遵守状況をチェックする			

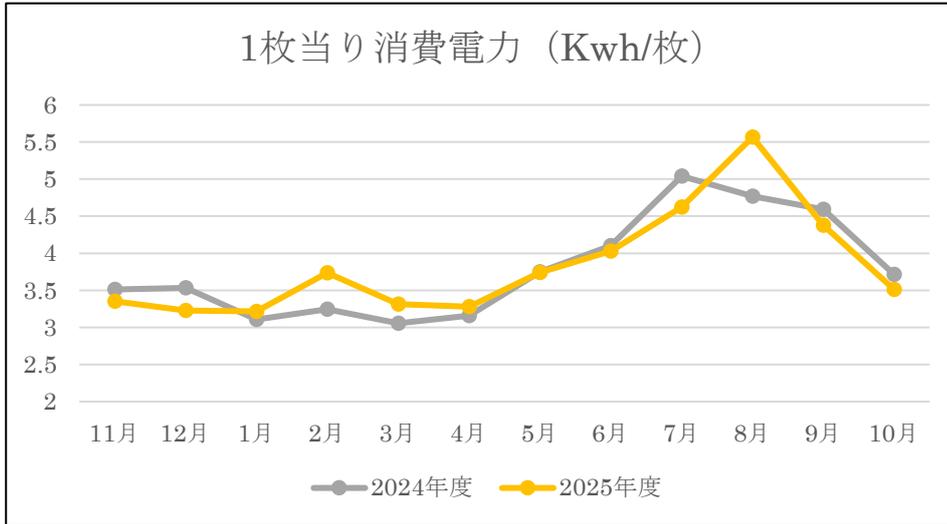
※ 基準年度 (2024年度) は2023年11月~2024年10月

※ 2024年4月より千葉工場で使用する電力は再エネ100%電力としたことから、使用電力におけるCO2排出量は0を達成。よって二酸化炭素排出量削減目標は「単位当り使用電力」とした。

#### ② 2025年度運用結果 (2024年11月~2025年10月)

目標項目	2024年度 (基準年度)	目標	実績	達成状況
<b>1. CO2 排出量削減</b> ①単位当り使用電力 (Kwh/枚)	3.782	維持	3.782	○
<b>2. 廃棄物の削減</b> ①原紙抜き滓 (g/枚) ②廃プロピレン (g/枚)	1.22 0.077	維持 維持	1.23 0.093	× ×
<b>3. 水使用量の削減 (m<sup>3</sup>)</b>	580.6	維持	684.1	×
<b>4. 化学物質使用量の適正管理</b>	管理ルールを遵守し、適正に管理されている			○

達成状況： ○目標達成、△目標未達、但し基準年比減、×目標未達



2025年度も生産機運転の効率化に努めました。夏場の猛暑のエアコン稼働で1枚当たりの消費電力は悪化しましたが、年間では目標を達成。2026年度以降も引き続き改善に努めます。

## (2) 本社

### ① 中長期目標

目標項目	2024年度 (基準年度)	2025年度	2026年度	2027年度
<b>1. CO2 排出量削減</b>				
①電力 (kg-CO2)	5,544	維持	維持	維持
②ガソリン (kg-CO2)	633	維持	維持	維持
<b>小計</b>	<b>6,177</b>			
<b>2. 水使用量の削減 (㎡)</b>	<b>47.2</b>	維持	維持	維持
<b>3. 環境対応製品販売 (千円)</b>	<b>※(A)</b>	+5%	+10%	+15%

※ 2024年度(基準年度)のCO2排出量係数は、令和4年度東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数0.390kg-CO2/kWhを使用しました。

### ② 2025年度運用結果 (2024年11月～2025年10月)

目標項目	2024年度 (基準年度)	目標	実績	達成状況
<b>1. CO2 排出量</b>				
①電力 (kg-CO2)	5,544	維持	5,755	×
②ガソリン (kg-CO2)	633	維持	696	×
<b>小計</b>	<b>6,177</b>		<b>6,451</b>	
<b>2. 水使用量の削減 (㎡)</b>	<b>47.2</b>	維持	<b>53.9</b>	×
<b>3. 環境対応製品販売 (千円)</b>	<b>※(A)</b>	※(A) × 105%	(A) × 106.1%	○

達成状況： ○目標達成、△目標未達、但し基準年比減、×目標未達

### (3) 2025 年度 CO2 排出量

(kg-CO2)	千葉工場	本社	合計
1. 電力 (※)	0	5,755	5,755
2. ガソリン	438	696	1,134
3. 軽油	387		387
4. LPG	133		133
<b>合計</b>	<b>958</b>	<b>6,451</b>	<b>7,409</b>

(※) 電力の算出における CO2 排出量係数は、令和 4 年度東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数 0.390kg-CO2/kWh を使用

## 6. 環境活動計画・取組結果と評価、次年度の取組内容

### (1) 工場

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
<b>CO2 排出量削減</b> (電気) ① 昼休みの消灯 ② エアコン冷房室温 28℃暖房 20℃ ③ クールビズ運動 ④ パソコン省エネ設定 ⑤ 省エネタイプへ設備更新 ⑥ 生産効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼休みの消灯は EA21 取組前より 100%実施。</li> <li>・ 事務所棟の室温管理は 100%実施。工場棟は猛暑の影響で室温上昇傾向だが、社員の健康管理の観点から冷房設定を 28℃以下で運用。</li> <li>・ 脱炭素補助金を活用し、工場棟のエアコン 3 台を省エネ型に更新。中長期的に消費電力の削減に寄与。</li> <li>・ 生産効率の向上により、生産増の一方、生産単位当りの電力消費量の目標を達成。</li> </ul>	継続して実施する
<b>CO2 排出量削減</b> (ガソリン) ①エコドライブの徹底 ②燃費管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコドライブの励行。</li> <li>・ 使用記録票を作成し燃費を管理。</li> </ul>	継続して実施する
<b>廃棄物量削減</b> ① 両面コピーの推進 ② 廃棄物区分によりリサイクル効果の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報管理上問題ないものについては裏面を再コピー利用中。</li> <li>・ 原紙抜き滓の有価での売却を継続。</li> </ul>	継続して実施する

③ 紙送りピッチの見直し		
<b>水道水の削減</b> ① 節水シールの貼り付けとポスター掲示 ② 節水弁の取り付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 節水教育を継続中。</li> <li>・ トイレ他、省エネ型に切り替え済。</li> </ul>	継続して実施する
<b>化学物質適正管理</b> 使用量を台帳により適正管理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用量を台帳管理により適正に管理する。</li> </ul>	継続して実施する

## (2) 本社

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
<b>C02 排出量削減</b> (電気) ① 空調温度の適正化 (冷房 28℃、暖房 20℃) ② クールビズ運動 ③ パソコン省エネ設定 ④ 昼食時、不使用時の消灯徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 室温管理は EA21 取組前より 100% 実施しているが、猛暑の影響もあり使用電力は増加。</li> <li>・ クールビズの実施 (5~10 月)</li> <li>・ PC は EA21 取組前より省エネ設定。</li> <li>・ 昼休みの消灯も 100% 実施。</li> </ul>	継続して実施する
<b>C02 排出量削減</b> (ガソリン) ① エコドライブの徹底 ② 冷房の控えめ使用 ③ 燃費管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業活動の活発化により使用量増加。</li> <li>・ エコドライブを励行。</li> <li>・ 使用記録票を作成し管理している。</li> </ul>	継続して実施する
<b>環境対応製品販売</b> ① 環境対応製品の開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs 等の環境意識が高まる中、FSC 認証・間伐材使用等の環境対応製品の拡販に努め、環境対応製品の販売は基準年度比+6.1%で目標達成。</li> </ul>	継続して FSC 認証製品の拡販に努める。
<b>廃棄物量削減</b> ① 両面コピーの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報管理上問題ないものについては裏面を再コピー利用中。</li> </ul>	継続して実施する
<b>水道水の削減</b> ① 節水シールの貼り付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 節水教育を継続中</li> <li>・ トイレ他、省エネ型に切替。</li> </ul>	継続して実施する

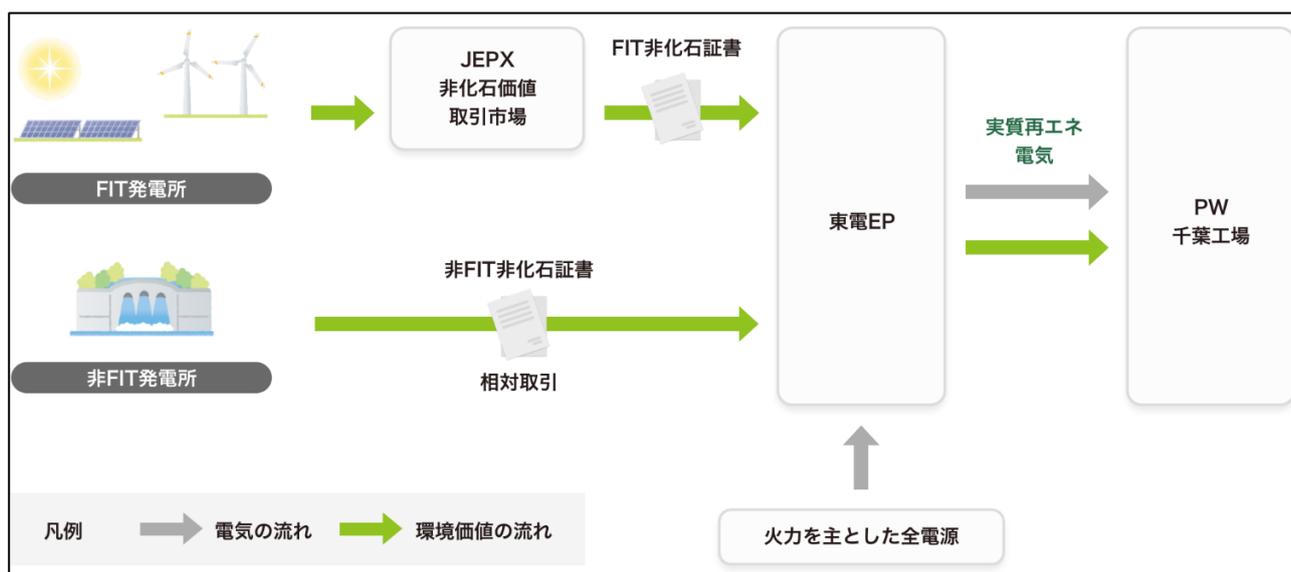
### (3) カーボンニュートラルの実現

2024年4月より、千葉工場で使用する電力の100%は、東京電力エナジーパートナー株式会社が提供するグリーンベーシックプラン(注)を導入しております。これにより当該施設でのCO2排出量の99.8%が実質ゼロになります。

社会全体が脱炭素化を目指す中、当社は地球環境と人類社会の共生、循環型社会の実現へ向けて、ものづくりで人間社会と地球環境の中で調和することを目指しています。その一環として、自社の事業活動に起因する温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

(注) グリーンベーシックプランとは

東京電力エナジーパートナー株式会社が提供する、実質的にCO2排出量がゼロとなる太陽光・風力・水力その他の再生可能エネルギー由来の電力を供給するプラン。全電源平均電力にFIT非化石証書(トラッキング付き)および再エネ指定の非FIT非化石証書(電源属性情報有り)を組み合わせたRE100等における各種報告に対応可能な非化石証書を活用したメニュープランです。



## 8. 環境に優しい（環境の改善に寄与する）製品

### (1) ペーパーウェアが作る環境にやさしい紙製食器

紙の原料となる木材パルプは約 88%が植林によるものです。管理された木々が成長の段階で多くの二酸化炭素を吸って温暖化対策に貢献しています。

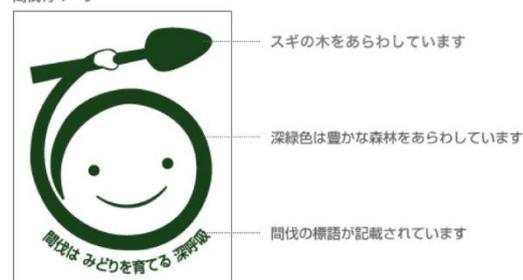
さらに、製造段階で出る廃液（黒液）を燃料として活用。そして植林を行う、このサイクルを繰り返す事により、管理された循環資源として温暖化対策・枯渇する事のない資源として環境対策に貢献しています。



### (2) 間伐材マーク使用認定の取得

森林が過度に密集すると日照不足により樹木が健全に育たなくなるため、成長を促す目的で一部の立木を伐採する「間伐」が行われます。この際に発生する木材を間伐材といい、その有効活用は森林整備と環境保全の両立につながります。間伐材マークは、認定を受けた製品に付与され、間伐や間伐材利用の重要性を社会に伝えるとともに、企業の森林育成への貢献を消費者に示す役割を果たしています。

間伐材マーク



### (3) FSC®/COC認証の取得 (FSC®C126252)

当社は 2015 年 9 月、森林資源の保全と持続可能な利用への取り組みとして、FSC®森林認証を取得しました。FSC®森林認証は、独立した第三者機関が定めた国際的な基準に基づき、適切に管理された森林を認証する制度です。当社は、認証森林由来の原材料が流通・加工過程において適切に管理されることを証明する COC 認証を取得しており、FSC®認証原紙を使用した紙皿や紙製食品容器の製造を行っています。



### (4) 竹パルプ製品の発売

持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、大手紙商社と協働して再生可能資源である竹パルプを使用した紙皿を開発・発売しました。竹は成長が早く枯渇不安がない一方、資源としての活用は遅れており、この計画的な利用により森林資源への依存を抑えることが可能になります。

また素材としても繊維強度が高いため、成形しても高強度の製品が実現できました。本製品の拡販により、資源循環型社会の形成や環境負荷の低減に貢献するとともに、SDGs が掲げる「つくる責任 つかう責任」などの目標達成を目指しています。



## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は以下の通りで、これらに対する違反はありませんでした。  
 なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去5年間ありませんでした。

適用関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
浄化槽法	千葉工場浄化槽	設置許可・法定点検 ⇒OK
廃棄物処理法	廃プラ等の産廃	委託契約等 ⇒OK
家電リサイクル法	廃棄時の家電リサイクル券	廃棄なし
容器包装リサイクル法	包装用パッケージフィルム	再商品化義務 ⇒OK
フロン排出抑制法	エアコン等のフロン漏洩確認  フロン回収	簡易点検・定期点検実施記録の保管⇒OK 廃棄時対応⇒廃棄なし
消防法	防火管理者選任、消防用設備点検	届け出、点検結果 ⇒OK

## 10. 代表者による全体評価と見直しの結果

(全体評価)

2025年度は、緩やかな景気回復が進むなか、消費者の節約指向、海外製品との競争激化等、厳しい環境下ではありましたが、大手量販店や企業向け社食、ペット用品、介護福祉業界等、新規市場での取引先開拓や取引拡大がありました。

また環境対応製品の販売では、市場の環境意識が高まる中、拡販を進め、目標比プラスとなりました。

当社のCO2排出量の殆どは工場で使用する電力由来でしたが、2024年4月から工場の使用電力を全量再エネ100%電力としたことで、2025年度は生産工程でのCO2排出量ゼロを達成しました。

環境目標に未達はありますが、「環境にやさしい紙の食器・容器」メーカーである当社の主力製品と位置付ける環境配慮型製品の拡販により、市場との環境コミュニケーションも図っております。

引き続き全員参加の体制を更に浸透させ成果をあげていきます。

以上